

小学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
感覚を養う 命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	1. 地域の高齢者・障がい者・子ども、或いは社会福祉施設等利用者と交流を図る		ノーマライゼーションを体感	[ねらい] 障がい者との交流をとおして、障がい者への理解と認識が深まる。	期間:2年間 ・第1回 施設見学 ・第2回 施設での交流会 ・第3回 小学校に招待 お楽しみ交流会 ・第4回 施設で心の学習発表会 ・第5回 施設で最後の交流会	・小学校5・6年 ・社会福祉施設(多機能型障害福祉サービス事業所)	⇒P.25
			心であくしゅ ～総合的な学習の時間～	[ねらい] 障がいのある人の立場に立ち、共に生きていくために大切なことを考える。また、災害の種類や内容について知り、自分の命を守る方法を考え、避難するときや避難所での生活する際にできるボランティアを探し、自助の力を身につける。	福祉教育 ・視覚障がい者講話 ・身体障がい者講話 ・聴覚障がい者講話 ・手話学習 ・点字学習 ・高齢者疑似体験 ・車いす体験 ・アイマスク体験 ・ユニバーサルデザインについて 防災ボランティア教育 ・起震車 乗車 ・震災ボランティア講話、非常食体験、小学生にできるボランティア活動 ・液化化実験、災害伝言ダイヤル「171」 ・災害時に生かせるロープワーク ・防災カルタ	・社会福祉協議会 ・点訳サークル ・身体障がい者福祉会 ・災害ボランティアの会 ・行政(危機管理局)	小学生、中学生、高校生等、 大人 ⇒P.26
			わくわく交流広場	[ねらい] 昔の遊びを通して地域の高齢者と仲良くなろう。	年6回学校で地域住民の参加を得て、昔遊びや手作り工作を実施する。 活動時間 12:55～13:55 内容 わらべうた遊び、おはじき、将棋、囲碁、コマ返し	・PTA ・教職員 ・地区公民館 ・社会福祉協議会 ・老人クラブ連合会 ・民生児童委員協議会 ・交通安全協会 ・青少年育成協会 ・更生保護女性会	
			小学生福祉体験教室	[ねらい] 小学生に福祉への興味・関心を促す。障がい者との交流等を通して、福祉に興味関心を持つ。	[活動期間] 年間3回 [展開] ・福祉に関する話 ・障がい者との交流や体験活動 ・レポート 体験のまとめ	・障がい者 ・県障害福祉課 ・公共施設 ・市教育委員会 ・市内福祉団体	
			地域みんなが集まろう!	[ねらい] 集落の中のみんなが公民館に集まり、交流を図ることで地域福祉への理解と関心を高め、子供会も交えて「ともに支え合おう」とする心を育てる。	・計画を立てる。 ・サロンの開催(7、8、9、1月は子供会と交流) ・ふりかえり。	・サロン世話人 ・役場福祉課	全世代 ⇒P.53
			施設の利用者と交流しよう	[ねらい] 地域にある高齢者施設やグループホーム、障がい者施設等の利用者が地域の行事に参加したり、地域住民が施設の行事に参加することで、地域住民と施設の利用者とのつながりをつくり、日常的に関わりを持てるようにする。	・施設のことを知ろう。 ・施設の利用者と交流しよう。 ・ふりかえり。 ・施設の利用者を招待しよう。 ・施設が行うボランティア活動などに参加してみよう。	・学校 ・社会福祉協議会 ・施設 ・社協ボランティアセンター	全世代 ⇒P.55
			ペットボトルキャップをワクチンに かえて世界の子どもたちを救おう!	[ねらい] ペットボトルキャップのリサイクル活動を通じて「福祉の心」を実践活動の中から育てるとともに、気軽に参加できる子どもたちのボランティア活動の場をつくる。地域の誰もが気軽に参加できるボランティア活動の場をつくる。	・ボランティア活動、リサイクルについて学習する。 ・小学校は、各学校で回収、分別、発送することで自主的な活動として取り組んでいる。 ・回収、分別、発送だけでなく、キャップアートに挑戦することで、楽しみながらボランティア活動につなげている。	・いきいきサロン	小学生、中学生、高校生等、 大人 ⇒P.27

小学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ	
感覚を養う 命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	2. 様々な情報・話等を通じ命の大切さを理解する		防災キャンプで防災教育	[ねらい] 地域の子どもを対象に、住民や学生が協働して避難所体験を行うことで、子どもと大人がお互いの顔がわかる関係を築きながら、思いやりの気持ちを育み、防災への意識を高める。	1泊2日 ・防災についてのお話を聞こう。・避難体験ゲームを体験しよう。 ・避難所をつくろう。・炊き出しをしてみよう。 ・防災グッズについて知ろう。・物資を運ぶ訓練をしよう。 ・緊急避難訓練。・非常食を食べてみよう。 ・町歩きをしよう。・応急救護の訓練をしよう。 ・ふりかえり。	・社会福祉協議会 ・行政(防災・安全部局) ・PTA ・学校 ・ボランティア ・消防署	小学生～大人 ⇒P.56	
	3. 様々な人とのふれあいから思いやりの心を育てる		自分の町をよくするしくみ	[ねらい] 地域の住民の皆さんの善意の寄付が、高齢者や障がいのある人のために活かされている場に出かけ、高齢者や障がいのある人と交流しながら、地域に貢献する心を育む。	・赤い羽根共同募金などへの寄付が地域でどのように活かされているか学ぶ。 ・グループごとに寄付が活かされている共同作業所や高齢者サロンなど調査先を考える。 ・現地に出向き、実際にどのように活かされているかを理解する。 ・高齢者や実際に作業している人から話を聞く。 ・学校でそれぞれのグループから報告する。	・社会福祉協議会 ・共同募金委員会 ・福祉推進員 ・民生児童委員	小学生、中学生 (島根県)	
	4. 話や福祉体験等を通じ、高齢者・障がい者等の特性を理解、心のバリアフリーを育む			高齢者と小学生の交流の輪を広げよう	[ねらい] 高齢者と小学生が交流することで高齢者にとっての生きがいをつくり、小学生による高齢者の見守り活動へとつなげる。	○高齢者と交流 ・学校の空き教室を利用 屋の休憩時間を利用して囲碁将棋・昔遊びなどをする。 ・学校の授業の中で交流 昔の地域の祭り、伝統芸能、地域の文化などについて話を聞く。給食を一緒に食べる。 ・学校行事を通して交流 学校の環境美化、グラウンドゴルフ大会などをする。 ・公民館活動での交流 正月飾りづくり、餅つき大会をする。 ○ふりかえり	・公民館 ・学校 ・民生児童委員 ・老人クラブ ・教員 ・PTA	小学生、中学生 ⇒P.28
				地域の高齢者について知ろう	[ねらい] 地域の施設に通ったり、そこで生活している高齢者との交流を通して、支援が必要な状態について知り、自分たちにできることはないか考える。	・地域の高齢者を招き話を聞く。 ・体験から高齢者を知ろう。 ・ふりかえり ・ふりかえりで考えたことを実践しよう。	・社会福祉協議会 ・地域住民 ・施設	小学生、中学生 ⇒P.29
				福祉体験を通して“地域のいろんな人とかかわろう”	[ねらい] 地域に住むいろいろな人と共に暮らしていくために、自分にできることを考え、実行に移せる力身につけ、「心のバリアフリー」を育む。	・事前準備 ・町立福祉センターを訪問、ふりかえり ・車いすについて学習、車いすを体験、ふりかえり ・アイマスク体験、ふりかえり ・目の不自由な人と交流、ふりかえり	・社会福祉協議会 ・小学校 ・地域住民 ・町立福祉センター	小学生、中学生 ⇒P.30
				「やさしい心で」～小学生の中に育った学びの芽～	[ねらい] 総合的な学習の時間を使っての実践。いろいろな福祉体験や支援学校との交流、ユニバーサルデザイン調べなどを行い、相手の立場に立って思いやることの大切さや、みんなが暮らしやすい社会にするための工夫について学習する。	「視覚障がいをもった方の生活について知ろう」 ・学区に住んでいる視覚障がいを持っている方から話を聞く。 ・アイマスク・白杖体験や点字体験	・社会福祉協議会	小学生、中学生 ⇒P.31
				学んで、体験して、思いやりの心を育てよう! ～つながる福祉教育～	[ねらい] 高齢者疑似体験や認知症サポーター養成講座を受け、高齢者の身体の不自由さや認知症の理解を深めることにより、思いやりの心を育て、自分たちにできることについて考える。	・福祉センターについて知ろう。 ・高齢者の体について学ぼう。 ・認知症について学ぼう。 ・高齢者と交流しよう。	・社会福祉協議会 ・地域包括支援センター ・障がい老人をささえる家族の会	小学生、中学生 ⇒P.32

小学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ										
感覚を養う 命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	5. 補助犬の必要性や役割を理解する	障がい者の暮らしを考えよう	[ねらい] 地域のなかで補助犬と生活を共にする障がい者から話を聞いたり、交流したりする中で、障がい者が地域で暮らしていくうえでの課題や自分たちができることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 補助犬について知ろう。 補助犬の仕事を見てみよう。 ふりかえり。 補助犬を広めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 社会福祉協議会 補助犬と生活している人 地域住民 	小学生、中学生、高校生等、大人											
							6. あいサポーター研修	ひとりひとりのよさや個性や特性を理解しよう	[ねらい] 特性を大事にし、ひとりひとりにあった学習の仕方や応援の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 今日の時間の目当てを話す。 特別支援学級や支援教室や通級教室の学習の様子を話す。 資料『障がいを知り、共に生きる』の一部を読む。 「障がい」を「特性」として受け止めることについて話す。 質問を受けながら、時と場に応じた対応の仕方について考える。 今日の学習で思ったことや考えたことをふり返り、今後の交流について話す。 	・メッセンジャー	小学生 (島根)					
													自分にできることを考えよう	[ねらい] 相手の立場に立って考え、自分から関わろうと行動することの大切さに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> 今日の時間の目当てを話す。 資料『障がいを知り、共に生きる』の第1章「障がいのある人の理解と社会の問題」について知る。 (写真や絵、イラストを手掛かりにしながらイメージを広げる。実際に見たことのあるものを発表したり、自分の体験を語ったりしながら理解を深める。) 資料『障がいを知り、共に生きる』の第2章「心をひらくことの大切さ」を読んで考える。 (メッセンジャーが読み聞かせた後、「P24みんなで考えよう」を手掛かりに考えを出し合う。) 	・メッセンジャー	小学生 (島根)
関心を持つ・課題を認識する 地域の特徴や抱える生活・福祉課題について理解する	1. 地域で遊びながら、特徴や課題等を学ぶ	地域で体験プログラム「地域であそぼっ！」 対象：低学年	[ねらい] 子どもが地域で主体的に関われる活動を進める。 ・子どもが地域で主体的に関われる活動を進める。 ・支援するおとなの役割・関わり方 支援者スタンス「見守って、子どもの自主的な動きを待つこと」	事例「子どものお店」地域のお祭りに参加 ☆地域スタッフの動き ・検討会への参加 ・おとなのワークショップ参加 ・小学校への説明 ・まつり実行委員会への説明 ・子ども会議へ出席 ・こものづくり支援 ・児童クラブ通信で保護者にお知らせ ・子どものお店出展支援 ・ふりかえり ☆子どもの動き ・子ども会議 ・こものづくり ・看板作り ・子どものお店出店 ・ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> 子供会 子どもNPO 公民館 子どもの居場所 子どもの広場 	小学生											
							自然の大切さ・自然の恵みを知ろう	[ねらい] 自分たちの生まれ育った地域を知ることで、自然に親しみ、守ることの大切さを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇山の水について知ろう。 〇〇山のブナの森について知ろう。 ふりかえり。 (社協 サマースクール) 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア(学習支援) 「〇〇山ブナの森を育てる会」 	小学生、中学生、高校生等 ⇒P.34						
												ふるさとってなんだろう？ 〇〇町で生きる「昭和58年洪水」(災害)にふるさとを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの地区の災害を調べる。 家の人の思い出を聞く。もっと昔の水害のことも調べる。親せきや知り合いに体験を聞く。当時の新聞を読む。「災害と〇〇町の人々」について講演を聞く。30年前に活躍した人の話を聞く。地区の皆さんに〇〇町への思いを聞く。 洪水学習で学んだことを冊子にまとめ、地域の人たちに配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生、中学生 ⇒P.35			

小学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
関心を持つ・課題を認識する 地域の特徴や抱える生活・福祉課題について理解する	2. 自分たちの地域を知る、過去の災害から故郷を知る		まちのお宝番組をつくろう 子どもディレクターになって番組をつくろう	[ねらい] 地域ではさまざまな人が暮らし、長い時間その暮らしを紡いでいる。そのことを知り、たくさんの人と出会うことで、子どもたちは教科の学習では学べない地域の姿を学ぶ。 地域の人は、改めて子どもに語ることで自分や自分の地域を見つめなおす。	・情報収集(下調べ)する。 ・グループ分け クラスを超えて実施。 ・取材先の決定、準備。 ・お宝探しの取材に出発。 ・みんなでお宝を見せ合おう。 ・番組や地図、新聞にして発信。 ・気づいたことを整理する。	・社会福祉協議会 ・地域の人(付添ボランティア、地域で活動している人) ・保護者	小学生、中学生 ⇒P.36
			伝えていこう 地域の物語 地域の人と、地域の伝承を「お芝居」に	[ねらい] 子どもたちが、学校、保存会と協働・参画し、地域に伝わる物語を上演することにより、ふるさとを愛することなどを学ぶ。		・学校 ・PTA ・保存会	小学生
			〇〇町ユニバーサルプロジェクト	[ねらい] 障がい者が望むユニバーサルマップを作るプロジェクトに参加することにより、これまで意識していなかった道路の段差や斜度が障がい者にとっては不便なものとなることに気づいたり、協力者である店主主から「地域を大切に」することを学ぶ。		・障がい当事者 ・障がい者支援団体 ・福祉分野の専門家 ・企業	小学生～大人
			シカの食害問題から学ぶ ふるさと自然のこと	[ねらい] シカの食害は、中山間地の過疎・高齢化、森林の荒廃などと深くつながっていることを学ぶとともに、どんな複雑な問題でも、解決のためにできることは必ずあり、出来ることから始めることを学ぶ。	・シカによる農林業被害について学ぶ。 ・シカを増やさない方法について考える。 ・シカに荒らされた森を復活させることを学ぶ。 ・ニッコウキスゲの花畑を復活させることを学ぶ。 ・苗を育て、〇〇高原に植える。	・農業協同組合	小学生、中学生、高校生等、 大人 ⇒P.37
			子どもから大人までが関わりを持つ福祉のまちづくり～子どもボランティア隊の活動	[ねらい] 「子どもたちの自立と共生」地域の中で大人との関わりをもち、自分達のやりたい事・地域の人みんなが、幸せになる為に、自分たちも地域の一人として、何が出来るか考え活動につなげる。 ・友達作り、子ども同士の縦横のつながりをつくる。 ・地域ぐるみで次代を担う子どもたちを育てる。 ・体験を通して、大人のつながりの中で福祉を学	・対象者:小学4年生～高校生まで ・活動:年20回 メイン活動 ・地域探検災害マップ作り。 ・救急法を学ぼう。 ・認知症サポーター養成講座。 ・地震防災センター見学。	・サポート隊(小中PTA役員、子供会役員、ボランティア、社会福祉協議会) ・協力者:小中学校、小中PTA、子供会、連合自治会、社会福祉協議会	小学生～大人 ⇒P.58
	3. 福祉課題を学ぶ	広報紙「社会福祉だより」を作成し、福祉活動の啓発を図ろう	[ねらい] 広報紙を活用して、地域の中での社会福祉活動の実態や課題、目指す方向等を広く住民に理解してもらい、福祉活動について関心をもてるようにする。	・広報紙をつくる人を決めよう。(事前に地区社協、民生児童委員協議会、公民館等と打ち合わせ) ・広報紙を創ろう。 ・地域の人に配ろう。 ・アンケートを実施しよう。 ・ふりかえり。 ・ふりかえりでの意見をもとに、広報紙を工夫しよう。	・社会福祉協議会 ・自治会 ・学校 ・民生児童委員協議会 ・地域ボランティア ・公民館 ・老人クラブ ・障がい者団体	小学生～大人 ⇒P.61	
将来の地域の姿や、暮らしやすい地域のあり方について考える	5. 地域探索等を通じ誰もが住みやすい町を考える	僕たちのまちを知るワークショップ	[ねらい] 地域福祉に携わる『人』を知ることで、児童本人に「家庭」や「仕事」以外に「地域人」としての役割を認識や納得させる。 また、児童の親が多様な地域活動を知るきっかけとなる。	・インタビュー 宿題で保護者に「地域の人ってどんな役割の人がいるか」聞く。 ・事前学習 地域の人情報をクラスで共有 班ごとに質問を考える。 ・事前学習2 民生児童委員や自治会長、消防団長さんなどに話を聞く。 ・まち探検 事前学習2で話に出た場所を地図で探しに行きマッピング。 ・まとめ まとめてきた情報を地図化する。 ・報告会※関わった方や保護者を招く。社協担当者や地区社協から話題以外の地域福祉の担い手を紹介する。 ・リフレクション※各自の学びをクラス内で共有する。地域の人への手紙形式が有効。	・社会福祉協議会 ・地域の自治会長 ・民生児童委員 ・消防団長 ・保護者	⇒P.38	

小学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
関心を持つ・課題を認識する	将来の地域の姿や、暮らしやすい地域のあり方について考える	5. 地域探索等を通じ誰もが住みやすい町を考える	ふるさと「〇〇町を見つめて」～誰もが住みやすい町・〇〇町へ～	[ねらい] バリアのない〇〇町にしていけるために、車いすバスケット交流や地域のバリアフリー調査隊等の活動に取り組み、すみやすい町づくりに向けて、自分たちのできる行動へつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の中のバリアを体験しよう。 ・車いすバスケットを体験しよう。 ・地域のバリアフリー調査。 ・バリアフリー調査のまとめ。 ・あいサポートキッズ研修。 ・福祉センターで高齢者や職員の方と交流する。 ・地域や保護者の方に学んだことをまとめて発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットボールクラブ ・公共施設(バリアフリー調査) ・地域福祉センター ・あいサポート研修指導者 	小学生、中学生 ⇒P.39
			地域の安全点検をして、災害に備えよう	[ねらい] 防災をテーマに、子どもと大人が一緒になって自分の地域を点検して防災マップを作ることで、防災意識を高め、誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりにつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の被害や対策について考えよう。 ・どんな防災マップにするか話し合おう。 ・地域を点検しよう。 ・防災マップを作ろう。 ・ふりかえり。 ・ふりかえりで考えた取り組みを実践しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会 ・行政 ・公民館 ・社会福祉協議会 ・学校 ・地域住民 ・民生児童委員 ・ボランティア 	小学生～大人 ⇒P.63
課題解決の方策を考える	課題解決に向けて地域住民の理解や参画を得る		ここは、地域みんなの学校 地域の中に学校がある、学校の中に地域がある	[ねらい] 小学校をコミュニティースクールに ・〇〇町を知り〇〇町を愛する子を育てる。 ・〇〇町を元気にする活動を率先して行う。 ・〇〇小学校に地域の世代間交流の拠点としての役割を持たせる。 ・「学校・家庭、地域の子どもたちを軸としたささえあいの循環」を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の現状を地域と共有する。 ・学校を地域に開き、学校応援隊、応援隊ちよこつと部隊、学校支援コーディネーター等に助けをもらい、地域の伝統文化、歴史、生活体験を伝える(調理実習の下準備、プリントの印刷、音楽・美術の実技指導など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者 ・地域住民 	小学生、大人
	課題解決に向けた組織・人・拠点づくりを行う		もうひとつのふるさと応援プロジェクト	[ねらい] ・高齢化集落における外部の力を活かした地域コミュニティづくり ・雪かき等ボランティアの育成 ・地域住民とボランティアの交流 [活動内容] ・雪かきボランティア体験活動 ・獣害対策、景観保護のための草刈り等の活動 ・地域住民との交流活動	[活動期間] ・通年(年間3回程度) 〈事前〉 ・地域学習・ボランティア同士の仲間づくり 〈体験・実践〉 ・雪かき体験塾・草刈り活動、交流活動 〈事後〉 ・活動のふりかえり(今後の地域への関わり方)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区自治会 ・市行政 ・県関係機関 	小学生～大人 ⇒P.71

中学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
感覚を養う 命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	1. 地域の高齢者・障がい者・子ども、或いは社会福祉施設等利用者と交流を図る		心であくしゅ ～総合的な学習の時間～	[ねらい] 障がいのある人の立場に立ち、共に生きていくために大切なことを考える。また、災害の種類や内容について知り、自分の命を守る方法を考え、避難するときや避難所での生活する際にできるボランティアを探し、自助の力を身につける。	福祉教育 ・視覚障がい者講話 ・身体障がい者講話 ・聴覚障がい者講話 ・手話学習 ・点字学習 ・高齢者疑似体験 ・車いす体験 ・アイマスク体験 ・ユニバーサルデザインについて 防災ボランティア教育 ・起震車 乗車 ・震災ボランティア講話、非常食体験、ボランティア活動 ・液化化実験、災害伝言ダイヤル「171」 ・災害時に生かせるロープワーク ・防災カルタ	・社会福祉協議会 ・点訳サークル ・身体障がい者福祉会 ・災害ボランティアの会 ・行政(危機管理局)	小学生～大人 ⇒P.26
			地域 みんなが集まろう！	[ねらい] 集落の中のみんなが公民館に集まり、交流を図ることで地域福祉への理解と関心を高め、子供会も交えて「ともに支え合おう」とする心を育てる。	・計画を立てる。 ・サロンの開催(7、8、9、1月は子供会と交流) ・ふりかえり	・サロン世話人 ・役場福祉課	全世代 ⇒P.53
			施設の利用者と交流しよう	[ねらい] 地域にある高齢者施設やグループホーム、障がい者施設等の利用者が地域の行事に参加したり、地域住民が施設の行事に参加することで、地域住民と施設の利用者とのつながりをつくり、日常的に関わりを持てるようにする。	・施設のことを知ろう。 ・施設の利用者と交流しよう。 ・ふりかえり。 ・施設の利用者を招待しよう。 ・施設が行うボランティア活動などに参加してみよう。	・学校 ・社会福祉協議会 ・施設 ・社協ボランティアセンター	全世代 ⇒P.55
	2. 様々な情報・話等を通じ命の大切さを理解する		ペットボトルキャップをワクチンにかえて世界の子どもたちを救おう！	[ねらい] ペットボトルキャップのリサイクル活動を通じて「福祉の心」を実践活動の中から育てるとともに、気軽に参加できる子どもたちのボランティア活動の場をつくる。地域の誰もが気軽に参加できるボランティア活動の場をつくる。	・ボランティア活動、リサイクルについて学習する。 ・中学校は、各学校で回収、分別、発送することで自主的な活動として取り組んでいる。 ・回収、分別、発送だけでなく、キャップアートに挑戦することで、楽しみながらボランティア活動につなげている。	・いきいきサロン	小学生、中学生、高校生等、大人 ⇒P.27
			防災キャンプで防災教育	[ねらい] 地域の子どもの対象に、住民や学生が協働して避難所体験を行うことで、子どもと大人がお互いの顔がわかる関係を築きながら、思いやりの気持ちを育み、防災への意識を高める。	1泊2日 ・防災についてのお話を聞こう。 ・避難体験ゲームを体験しよう。 ・避難所をつくろう。 ・炊き出しをしてみよう。 ・防災グッズについて知ろう。 ・物資を運ぶ訓練をしよう。 ・緊急避難訓練。 ・非常食を食べてみよう。 ・町歩きをしよう。 ・応急救護の訓練をしよう。 ・ふりかえり。	・社会福祉協議会 ・行政(防災・安全部局) ・PTA ・学校 ・ボランティア ・消防署	小学生～大人 ⇒P.56
	3. 様々な人とのふれあいから思いやりの心を育てる		自分の町をよくするしくみ	[ねらい] 地域の住民の皆さんの善意の寄付が、高齢者や障がいのある人のために活かされている場に出かけ、高齢者や障がいのある人と交流しながら、地域に貢献する心を育む。	・赤い羽根共同募金などへの寄付が地域でどのように活かされているか学ぶ。 ・グループごとに寄付が活かされている共同作業所や高齢者サロンなど調査先を考える。 ・現地に出向き、実際にどのように活かされているかを理解する。 ・高齢者や実際に作業している人から話を聞く。 ・学校でそれぞれのグループから報告する。	・社会福祉協議会 ・共同募金委員会 ・福祉推進員 ・民生児童委員	小学生、中学生 (島根県)
			高齢者と中学生の交流の輪を広げよう	[ねらい] 高齢者と中学生が交流することで高齢者にとっての生きがいをつくり、中学生による高齢者の見守り活動へとつなげる。	○高齢者と交流 ・学校の空き教室を利用 昼の休憩時間を利用して囲碁将棋・昔遊びなどをする。 ・学校の授業の中で交流 昔の地域の祭り、伝統芸能、地域の文化などについて話を聞く。給食を一緒に食べる。 ・学校行事を通して交流 学校の環境美化、グラウンドゴルフ大会などをする。 ・公民館活動での交流 正月飾りづくり、餅つき大会をする。 ○ふりかえり	・公民館 ・学校 ・民生児童委員 ・老人クラブ ・教員 ・PTA	小学生、中学生 ⇒P.28

中学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
感覚を養う 命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	4. 話や福祉体験等を通じ、高齢者・障がい者等の特性を理解、心のバリアフリーを育む		地域の高齢者について知ろう	[ねらい] 地域の施設に通ったり、そこで生活している高齢者との交流を通して、支援が必要な状態について知り、自分たちにできることはないか考える。	・地域の高齢者を招き話を聞く。 ・体験から高齢者を知ろう。 ・ふりかえり ・ふりかえりで考えたことを実践しよう。	・社会福祉協議会 ・地域住民 ・施設	小学生、中学生 ⇒P.29
			福祉体験を通して “地域のいろんな人とかかわろう”	[ねらい] 地域に住むいろいろな人と共に暮らしていくために、自分にできることを考え、実行に移せる力を身につけ、「心のバリアフリー」を育む。	・事前準備 ・町立福祉センターを訪問、ふりかえり ・車いすについて学習、車いすを体験、ふりかえり ・アイマスク体験、ふりかえり ・目の不自由な人と交流、ふりかえり	・社会福祉協議会 ・中学校 ・地域住民 ・町立福祉センター	小学生、中学生 ⇒P.30
			「やさしい心で」 ～中学生の中に育った学びの芽～	[ねらい] 総合的な学習の時間を使っての実践 いろいろな福祉体験や支援学校との交流、ユニバーサルデザイン調べなどを行い、相手の立場に立って思いやることの大切さや、みんなが暮らしやすい社会にするための工夫について学習する。	「視覚障がいをもった方の生活について知ろう」 ・学区に住んでいる視覚障がいを持っている方から話を聞く。 ・アイマスク・白杖体験や点字体験	・社会福祉協議会	小学生、中学生 ⇒P.31
			学んで、体験して、思いやりの心を 育てよう! ～つながる福祉教育～	[ねらい] 高齢者疑似体験や認知症サポーター養成講座を受け、高齢者の身体の不自由さや認知症の理解を深めることにより、思いやりの心を育て、自分たちにできることについて考える。	・福祉センターについて知ろう。 ・高齢者の体について学ぼう。 ・認知症について学ぼう。 ・高齢者と交流しよう。	・社会福祉協議会 ・地域包括支援センター ・障がい老人をささえる家族の会	小学生、中学生 ⇒P.32
			違いを超えて伝え合う 「視覚障がいがある人と美術館に」	[ねらい] 障がいがある人は助けを待つばかりの人ではありません。「してあげる⇒助けてもらう」だけではない、対等な関係を作るための豊かな出会いを紹介します。	美術館で実施される「対話型鑑賞」に中学生がボランティアとして参加する。	・障がい者自立生活支援センター	中学生、高校生等、大人
		5. 補助犬の必要性や役割を理解する	障がい者の暮らしを考えよう	[ねらい] 地域のなかで補助犬と生活を共にする障がい者から話を聞いたり、交流したりする中で、障がい者が地域で暮らしていくうえでの課題や自分たちにできることを考える。	・補助犬について知ろう。 ・補助犬の仕事を見てみよう。 ・ふりかえり。 ・補助犬を広めよう。	・PTA ・市町村社協 ・補助犬と生活している人 ・地域住民	小学生、中学生、高校生等、大人
		6. あいサポーター研修	障がいの特性や障がいのある方への配慮を知る-1-	[ねらい] 【知る】障がいについて学ぶ 【気づく】障がい者の気持ちを理解する。 【考える】誰もが暮らしやすい社会について考える。	・色々な人がいることへの気づき ・「障がい」とは ・障がいがある人の生活を知る。 ・みんなが暮らしやすい社会にするために、自分たちができることを考える。 ・体験する(疑似体験、身の回りにおける様々な工夫の調査など)。 ・あいサポート運動について知る。	・メッセージャー	中学生、高校生等 (島根県)

中学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
感覚を養う		6. あいサポーター研修	障がいの特性や障がいのある方への配慮を知る-2-	[ねらい] 【知る】様々な障がいの特性や障がいのある方への配慮について理解をする。 【気づく】当事者の方との交流 【考える】障がいのある方が暮らしやすい社会について考える。	・今日の取り組みや目的について話す。 ・グループワーク「障がいのある方はどんなことで生活しづらいと感じるか？」イメージや考えを書き出す。 ・障がいについて学習(DVD「まず、知ることからはじめましょう 障がいのこと」使用) ・当事者の方からのお話をきく。 ・グループワーク「障がいのある方が暮らしやすい社会にするためにはどうすればよいか」 ・発表	・メッセージャー	中学生、高校生等 (島根県)
			サマーボランティアスクール	[ねらい] 中学生を対象に、夏休みの期間を利用し、ボランティア活動に関する体験学習を行うことにより、ボランティア活動の意味などを考え、主体的なボランティア活動への理解や参加意欲を育てる。	・はじまりの会 アイスクレーキング ・グループワーク ・障がいについての学習 ・当事者の方の話を聞く。 ・グループワークと発表 ・おわりの会・記念撮影	・社会福祉協議会 ・中学校	⇒P.40 (雲南市社会福祉協議会)
関心を持つ・課題を認識する	地域の特徴や抱える生活・福祉課題について理解する	2. 自分たちの地域を知る、過去の災害から故郷を知る	自然の大切さ・自然の恵みを知ろう	[ねらい] 自分たちの生まれ育った地域を知ることで、自然に親しみ、守ることの大切さを知る。	・〇〇山の水について知ろう。 ・〇〇山のブナの森について知ろう。 ・ふりかえり。 (社協 サマースクール)	・ボランティア(学習支援) ・「〇〇山ブナの森を育てる会」	小学生、中学生、高校生等 ⇒P.34
			ふるさとってなんだろう？ 〇〇町で生きる「昭和58年洪水」(災害)にふるさとを学ぶ	[ねらい] 東日本大震災のニュースを見て生徒が抱いた疑問「あんなつらい思いをしたのに、なぜ帰りたいのだろう」を学びのはじまりとして、自分の住んでいる地域でも過去に大きな洪水があったことや、それに対する地区の皆さんの思い、「ふるさと」への思いを学び、被災した人たちの気持ちを思いやる。	・自分たちの地区の災害を調べる。 家の人の思い出を聞く、もっと昔の水害のことも調べる、親せきや知り合いに体験を聞く、当時の新聞を読む、「災害と〇〇町の人々」について講演を聞く、30年前に活躍した人の話を聞く、地区の皆さんに〇〇町への思いを聞く。 ・洪水学習で学んだことを冊子にまとめ、地域の人たちに配布する。		小学生、中学生 ⇒P.35
			まちのお宝番組をつくらう 子どもディレクターになって番組をつくらう	[ねらい] 地域ではさまざまな人が暮らし、長い時間その暮らしを紡いでいる。そのことを知り、たくさんの人と出会うことで、生徒は教科の学習では学べない地域の姿を学ぶ。 地域の人は、改めて生徒に語ることで自分や自分の地域を見つめなおす。	・情報収集(下調べ)する。 ・グループ分け クラスを超えて実施。 ・取材先の決定、準備。 ・番組や地図、新聞にして発信。 ・気づいたことを整理する。	・社会福祉協議会 ・地域の人(付添ボランティア、地域で活動している人) ・保護者	小学生、中学生 ⇒P.36
			〇〇町ユニバーサルプロジェクト	[ねらい] 障がい者が望むユニバーサルマップを作るプロジェクトに参加することにより、これまで意識していなかった道路の段差や斜度が障がい者にとっては不便なものとなることに気づいたり、協力者である店主から「地域を大切に」することを学ぶ。		・障がい当事者 ・障がい者支援団体 ・福祉分野の専門家 ・企業	小学生～大人
			シカの食害問題から学ぶ ふるさと自然のこと	[ねらい] シカの食害は、中山間地の過疎・高齢化、森林の荒廃などと深くつながっていることを学ぶとともに、どんな複雑な問題でも、解決のためにできることは必ずあり、出来ることから始めることを学ぶ。	・シカによる農林業被害について学ぶ。 ・シカを増やさない方法について考える。 ・シカに荒らされた森を復活させることを学ぶ。 ・ニッコウキスゲの花畑を復活させることを学ぶ。 ・苗を育て、〇〇高原に植える。	・農業協同組合	小学生、中学生、高校生等、大人 ⇒P.37

中学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
地域の特徴や抱える生活・福祉課題について理解する	2. 自分たちの地域を知る、過去の災害から故郷を知る		子どもから大人までが関わりを持つ福祉のまちづくり～子どもボランティア隊の活動	[ねらい] 「子どもたちの自立と共生」地域の中で大人との関わりをもち、自分達のやりたい事・地域の人みんなが、幸せになる為に、自分たちも地域の一人として、何が出来るか考え活動につなげる。 ・友達作り、子ども同士の縦横のつながりをつくる。 ・地域ぐるみで次代を担う子どもたちを育てる。 ・体験を通して、大人のつながりの中で福祉を学	・対象者：小学4年生～高校生まで ・活動：年20回 メイン活動 ・地域探検災害マップ作り。 ・救急法を学ぼう。 ・認知症サポーター養成講座。 ・地震防災センター見学。	・サポート隊(小中PTA役員、子供会役員、ボランティア、社会福祉協議会) ・協力者：小中学校、小中PTA、子供会、連合自治会、社会福祉協議会	小学生～大人 ⇒P.58
	3. 福祉課題を学ぶ		広報紙「社会福祉だより」を作成し、福祉活動の啓発を図ろう	[ねらい] 広報紙を活用して、地域の中での社会福祉活動の実態や課題、目指す方向等を広く住民に理解してもらい、福祉活動について関心をもてるようにする。	・広報紙をつくる人を決めよう。(事前に地区社協、民生児童委員協議会、公民館とうと打ち合わせ) ・広報紙を創ろう。 ・地域の人に配ろう。 ・アンケートを実施しよう。 ・ふりかえり。 ・ふりかえりでの意見をもとに、広報紙を工夫しよう。	・社会福祉協議会 ・自治会 ・学校 ・民生児童委員協議会 ・地域ボランティア ・公民館 ・老人クラブ ・障がい者団体	小学生～大人 ⇒P.61
将来の地域の姿や、暮らしやすい地域のあり方について考える	5. 地域探索等を通じ誰もが住みやすい町を考える		ふるさと「〇〇町を見つめて」～誰もが住みやすい町・〇〇町へ～	[ねらい] バリアのない〇〇町にしていくために、車いすバスケット交流や地域のバリアフリー調査隊等の活動に取り組み、すみやすい町づくりに向けて、自分たちのできる行動へつなげる。	・学校の中のバリアを体験する。 ・車いすバスケットを体験する。 ・地域のバリアフリー調査。 ・バリアフリー調査のまとめ ・あいサポート研修 ・福祉センターで高齢者や職員の方と交流する。 ・地域や保護者の方に学んだことをまとめて発信する。	・車いすバスケットボールクラブ ・公共施設(バリアフリー調査) ・地域福祉センター ・あいサポート研修指導者	小学生、中学生 ⇒P.39
			地域の安全点検をして、災害に備えよう	[ねらい] 防災をテーマに、子どもと大人が一緒になって自分の地域を点検して防災マップを作ることで、防災意識を高め、誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりにつなげる。	・地震の被害や対策について考えよう。 ・どんな防災マップにするか話し合おう。 ・地域を点検しよう。 ・防災マップを作ろう。 ・ふりかえり。 ・ふりかえりで考えた取り組みを実践しよう。	・自治会 ・行政 ・公民館 ・社会福祉協議会 ・学校 ・地域住民 ・民生児童委員 ・ボランティア	小学生～大人 ⇒P.63
			創ろう・造ろう 私にとってのふるさとと桜～地域に発信！桜〇〇町プロジェクト	[ねらい] 地域に対して自分ができていることを探り、実行することで、地域への所属意識を高め、自立できる生徒になる。	・働くってどういうこと？地元で働く人に話を聞く。職場体験等。 ・知ろう 私たちの住む地域 見つけよう 私たちのふるさと 「ふるさとと桜といえは〇〇町」〇〇に入るものを考え、調べる。 ・「わたしにとってのふるさととはここにある」という思いを持って学習を終える。	・地元の人々	中学生、高校生等 ⇒P.41
	6. 地域の課題や将来像から地域の未来を考える		STOP 〇〇町の人口減 私たちの地域 今・未来	[ねらい] 「何もないから、〇〇町はすきじゃない」と思っている生徒たちに、故郷への誇りをもってほしく、社会の授業で、人口という切り口で、世界・日本・〇〇町を学び、地域の課題や解決策を通して、将来の自分を考える。	・〇〇町の人口の予測データを作成 ・地域の人の聞き取り調査(〇〇町を離れた人、住み続けている人等) ・様々な意見を受け止め、課題に気づく。 ・人口減をストップさせるための理想と現実のはざままで思いは葛藤 ・対立する現実の中でより良い道を探す。	・地域の住民	中学生、高校生等 ⇒P.42
		電車廃線から地域を考えたありがとう〇〇線活動実行委員会の活動	[ねらい] 〇〇線の廃線が発表されたことにより、鉄道好きの生徒を中心に実行委員会を立ち上げ、最寄駅の清掃と「ありがとう〇〇線新聞」の発行活動を始めた。活動を通して地域の人たちとの出会いがあり、廃線問題だけでなく、地域の未来を考える視野を持つ。	・実行委員会を立ち上げる。 ・生徒会の予算をもらい、最寄駅の清掃活動と、「ありがとう〇〇線新聞」を発行する。 ・〇〇線沿線や駅員取材する。 ・テレビ出演。 ・小学生にも〇〇線のことを覚えていてほしく、キッズ新聞を発行する。 ・廃線の原因をメンバーで考える「〇〇線サミット」を開き、最終版に掲載する。	・生徒 ・保護者 ・地区住民自治協議会 ・地域の人 ・電鉄駅員	中学生、高校生等 ⇒P.43	

関心を持つ・課題を認識する

中学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
関心を持つ・課題を認識する	地域の様々な社会資源について理解する	8. 地域の福祉サービスや社会福祉施設を体験的に学び理解する	セーフティーネットを知るプログラム	[ねらい] 地域で住民同士の関わりが希薄化している中で、子どもたちが家族や学校以外の地域での関わりを持つことが難しくなっている。「人との関わり」を通して、自らSOSを出せる(相談できる)、周りのサポートを受け入れられる力(受援力)を養うことが重要。社会の中には様々なセーフティーネット(社会保障制度を含む)があり、色々な人々がお互いに支え合いながら生きていることを学ぶ。	プログラムの実施にあたっては、職場体験の経験と関連させて学びを深めていくことが有効と考えられるため、職場体験後の振り返りの時間に併せて導入することを前提としている。 ・1コマ目「みんなで支え合っている～相談できる場所を知ろう～」 グループでの話し合い、全体共有 ・2コマ目「みんなで支え合っている～支えあう仕組みを知ろう～」 グループでの話し合い、全体共有	・職場体験先の職員 ・地域住民	中学生、高校生等 ⇒P.44
			学校における福祉教育支援	[ねらい] ・福祉に興味、関心を持つ。 ・学校と地域とを福祉を介在につなぐ。	[活動期間] 7月～11月(10回程度) ・事前 福祉、ボランティア学習 ・市内の各福祉施設、ボランティア団体等での体験学習 ・外部講師の講演、交流など ・報告書の作成、発表会	・中学校 ・市内福祉施設 ・市内ボランティア団体 ・障がい者 ・市内社会教育施設 ・公共施設	中学生、高校生等
			私たちのできるサポートを学ぼう～思いやりをもって～	[ねらい] 総合的な学習の時間を使っての実践 1年生	・ガイダンス(福祉とは) ・私たちができる視覚障害者へのサポートを学ぶ。 ・フィールドワーク 市街地に行き、視覚障がいの体験とその支援を实践。 ・対話会 体験を通しての意見交換 講師(視覚障がい者、盲導犬利用者) 福祉マップ作成 ・ユニバーサルデザインを学ぶ。 ・高齢者体験 高齢者疑似体験と老人介護サービス、高齢者介護講座 ・福祉体験学習のまとめ ・意見発表「高齢者も障がい者も私たちが暮らしやすい社会」 ゲスト(社協、訓練士、介護士) ・まとめ 福祉体験学習を通しての報告書作成 「社協だより」に掲載し地域に発信する。	・社会福祉協議会 ・視覚障がい者の団体	中学生、高校生等 ⇒P.45
			高齢者も障がい者も私たちが暮らしやすい社会にするために、私たちのできること～アクションを起こそう～	[ねらい] 総合的な学習の時間を使っての実践 2年生	・ガイダンス 1年生の活動を踏まえて、アクションしよう。 ・体験にむけてテーマを決める。 ・福祉体験活動の具体化 福祉活動の实践。 ・夏休み 福祉講座等へ積極的に参加。 ・福祉体験学習のまとめ。 ・私たちが福祉 意見発表。	・社会福祉協議会 ・保護者	中学生、高校生等 ⇒P.46
			中学生福祉体験授業	[ねらい] 中学生が施設で福祉体験をすることで、福祉施設を知るとともに、高齢者に対するやさしい対応や心遣いなど、福祉のこころを育む。	時間数 1時間×3回 ・車いす体験、実習 ・シーツ交換体験、実習 ・レクリエーション体験 ・デイサービス体験実習 ・調理場体験	・中学校 ・社会福祉施設	中学生、高校生等
課題解決の方策を考える	地域を支える担い手(住民・ボランティア・専門職等)の役割を理解する	12. ボランティア養成講座	中学・高校生ボランティア・サマースクール(ワークキャンプ)	[ねらい] ボランティア体験を通して、高齢者、障がい者、子どもたちと交流し普段体験することの少ない貴重な時間を過ごす。	・事前プログラム 参加者の交流 ・ボランティア学習プログラム 3コース ・事後プログラム ふりかえり	・中学校、高校 ・外部講師 ・福祉施設 ・ボランティア団体	中学生、高校生等 ⇒P.47
	課題解決に向けて地域住民の理解や参画を得る		町道の「桜トンネル」を守ろう 50年続く自慢の伝統活動	[ねらい] 50年間中学校の生徒会活動で見守ってきた桜並木も老木化が進み、住民の「桜長寿化プロジェクト」も取り組みを始めた。中学校では、先輩から引き継いだ思いと、地域住民の願いを受け継ぎながら、広く長く続けていくための方策を考えながら、活動を続けている。		・地区の住民	中学生、大人

中学生

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
課題解決の方策を考える	課題解決に向けて地域住民の理解や参画を得る		つなごう! 私たちの「憲法」 「いじめない学校」、幸せな学校生活を目指して	[ねらい] 生徒会役員が中心になって、いじめを防止し、なくすことをめざし、「〇〇中学校憲法」を制定し、代々生徒会が取り組みを引き継いでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・07 全国でいじめ問題が顕在化 ・08 生徒会で話し合い、顧問の先生にも意見をもらい「〇〇校憲法」制定 生徒総会で全校生徒の承認を得る。 ・毎月、クラスごとに憲法を確認 ・人権集会の開催 ・生徒会にいじめ対策本部(13 いじめ対策委員会)を設置 ・13 町が「子どもいじめ防止条例」を制定 		⇒P.48
	課題解決に向けた組織・人・拠点づくりを行う		もうひとつのふるさと応援プロジェクト	[ねらい] ・高齢化集落における外部の力を活かした地域コミュニティづくり ・雪かき等ボランティアの育成 ・地域住民とボランティアの交流 [活動内容] ・雪かきボランティア体験活動 ・獣害対策、景観保護のための草刈り等の活動 ・地域住民との交流活動	[活動期間] ・通年 (年間3回程度) <事前> ・地域学習 ・ボランティア同士の仲間づくり <体験・実践> ・雪かき体験塾 ・草刈り活動、交流活動 <事後> ・活動のふりかえり(今後の地域への関わり方)	・地区自治会 ・市行政 ・県関係機関	小学生～大人 ⇒P.71

高校生等

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
感覚を養う 命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	1. 地域の高齢者・障がい者・子ども、或いは社会福祉施設等利用者と交流を図る	心であくしゅ ～総合的な学習の時間～	[ねらい] 障がいのある人の立場に立ち、共に生きていくために大切なことを考える。また、災害の種類や内容について知り、自分の命を守る方法を考え、避難するときや避難所での生活する際にできるボランティアを探し、自助の力を身につける。	福祉教育 ・視覚障がい者講話 ・身体障がい者講話 ・聴覚障がい者講話 ・手話学習 ・点字学習 ・高齢者疑似体験 ・車いす体験 ・アイマスク体験 ・ユニバーサルデザインについて 防災ボランティア教育 ・起震車 乗車 ・震災ボランティア講話、非常食体験、ボランティア活動 ・液化化実験、災害伝言ダイヤル「171」 ・災害時に生かせるロープワーク ・防災カルタ	・社会福祉協議会 ・点訳サークル ・身体障がい者福祉会 ・災害ボランティアの会 ・行政(危機管理局)	小学生、中学生、高校生等、 大人 ⇒P.26	
		地域 みんなが集まろう！	[ねらい] 集落の中のみんなが公民館に集まり、交流を図ることで地域福祉への理解と関心を高め、子供会も交えて「ともに支え合おう」とする心を育てる。	・計画を立てる ・サロンの開催(7、8、9、1月は子供会と交流) ・ふりかえり	・サロン世話人 ・役場福祉課	全世代 ⇒P.53	
		施設の利用者と交流しよう	[ねらい] 地域にある高齢者施設やグループホーム、障がい者施設等の利用者が地域の行事に参加したり、地域住民が施設の行事に参加することで、地域住民と施設の利用者とのつながりをつくり、日常的に関わりを持てるようにする。	・施設のことを知ろう。 ・施設の利用者と交流しよう。 ・ふりかえり。 ・施設の利用者を招待しよう。 ・施設が行うボランティア活動などに参加してみよう。	・学校 ・社会福祉協議会 ・施設 ・社協ボランティアセンター	全世代 ⇒P.55	
	2. 様々な情報・話等を通じ命の大切さを理解する	ペットボトルキャップをワクチンに かえて世界の子どもたちを救おう！	[ねらい] ペットボトルキャップのリサイクル活動を通じて「福祉の心」を実践活動の中から育てるとともに、気軽に参加できる子どもたちのボランティア活動の場をつくる。地域の誰もが気軽に参加できるボランティア活動の場をつくる。	・ボランティア活動、リサイクルについて学習する。 ・高校は、各学校で回収、分別、発送することで自主的な活動として取り組んでいる。 ・回収、分別、発送だけでなく、キャップアートに挑戦することで、楽しみながらボランティア活動につなげている。	・いきいきサロン	小学生、中学生、高校生等、 大人 ⇒P.27	
		防災キャンプで防災教育	[ねらい] 地域の子どもの対象に、住民や学生が協働して避難所体験を行うことで、子どもと大人がお互いの顔がわかる関係を築きながら、思いやりの気持ちを育み、防災への意識を高める。	1泊2日 ・防災についてのお話を聞こう。 ・避難体験ゲームを体験しよう。 ・避難所をつくろう。 ・炊き出しをしてみよう。 ・防災グッズについて知ろう。 ・物資を運ぶ訓練をしよう。 ・緊急避難訓練。 ・非常食を食べてみよう。 ・町歩きをしよう。 ・応急救護の訓練をしよう。 ・ふりかえり。	・社会福祉協議会 ・行政(防災・安全部局) ・PTA ・学校 ・ボランティア ・消防署	小学生～大人 ⇒P.56	
	4. 話や福祉体験等を通じ、高齢者・障がい者等の特性を理解、心のバリアフリーを育む	違いを超えて伝え合う 「視覚障がいがある人と美術館に」	[ねらい] 障がいがある人は助けを待つばかりの人ではありません。「してあげる⇒助けてもらう」だけではない、対等な関係を作るための豊かな出会いを紹介します。	美術館で実施される「対話型鑑賞」に高校生がボランティアとして参加する。	・障がい者自立生活支援センター	中学生、高校生等、大人	
	5. 補助犬の必要性や役割を理解する	障がい者の暮らしを考えよう	[ねらい] 地域のなかで補助犬と生活を共にする障がい者から話を聞いたり、交流したりする中で、障がい者が地域で暮らしていくうえでの課題や自分たちができることを考える。	・補助犬について知ろう。 ・補助犬の仕事を見てみよう。 ・ふりかえり。 ・補助犬を広めよう。	・PTA ・市町村社協 ・補助犬と生活している人 ・地域住民	小学生、中学生、高校生等、 大人	

高校生等

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
感覚を養う	命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	6. あいサポーター研修	障がいの特性や障がいのある方への配慮を知る-1-	[ねらい] 【知る】障がいについて学ぶ 【気づく】障がい者の気持ちを理解する。 【考える】誰もが暮らしやすい社会について考える。	・色々な人がいることへの気づき ・「障がい」とは ・障がいがある人の生活を知る。 ・みんなが暮らしやすい社会にするために、自分たちができることを考える。 ・体験する(疑似体験、身の回りにおける様々な工夫の調査など)。 ・あいサポート運動について知る。	・メッセージャー	中学生、高校生等 (島根県)
			障がいの特性や障がいのある方への配慮を知る-2-	[ねらい] 【知る】様々な障がいの特性や障がいのある方への配慮について理解をする。 【気づく】当事者の方との交流 【考える】障がいのある方が暮らしやすい社会について考える。	・今日の取り組みや目的について話す。 ・グループワーク「障がいのある方はどんなことで生活しづらいと感じるか？」イメージや考えを書き出す。 ・障がいについて学習(DVD「まず、知ることからはじめましょう 障がいのこと」使用) ・当事者の方からのお話をきく。 ・グループワーク「障がいのある方が暮らしやすい社会にするためにはどうすればよいか」 ・発表	・メッセージャー	中学生、高校生等 (島根県)
関心を持つ・課題を認識する	地域の特徴や抱える生活・福祉課題について理解する	2. 自分たちの地域を知る、過去の災害から故郷を知る	自然の大切さ・自然の恵みを知ろう	[ねらい] 自分たちの生まれ育った地域を知ることで、自然に親しみ、守ることの大切さを知る。	・〇〇山の水について知ろう。 ・〇〇山のブナの森について知ろう。 ・ふりかえり。 (社協 サマースクール)	・ボランティア(学習支援) ・「〇〇ブナの森を育てる会」	小学生、中学生、高校生等 ⇒P.34
			〇〇町ユニバーサルプロジェクト	[ねらい] 障がい者が望むユニバーサルマップを作るプロジェクトに参加することにより、これまで意識していなかった道路の段差や斜度が障がい者にとっては不便なものとなることに気づいたり、協力者である商店主から「地域を大切に」することを学ぶ。		・障がい当事者 ・障がい者支援団体 ・福祉分野の専門家 ・企業	小学生～大人
			シカの食害問題から学ぶふるさと自然のこと	[ねらい] シカの食害は、中山間地の過疎・高齢化、森林の荒廃などと深くつながっていることを学ぶとともに、どんな複雑な問題でも、解決のためにできることは必ずあり、出来ることから始めることを学ぶ。	・シカによる農林業被害について学ぶ。 ・シカを増やさない方法について考える。 ・シカに荒らされた森を復活させることを学ぶ。 ・ニッコウキスゲの花畑を復活させることを学ぶ。 ・苗を育て、〇〇高原に植える。	・農業協同組合	小学生、中学生、高校生等、大人 ⇒P.37
			子どもから大人までが関わりを持つ福祉のまちづくり～子どもボランティア隊の活動	[ねらい] 「子どもたちの自立と共生」地域の中で大人との関わりをもち、自分達のやりたい事・地域の人みんなが、幸せになる為に、自分たちも地域の一人として、何が出来るか考え活動につなげる。 ・友達作り、子ども同士の縦横のつながりをつくる。 ・地域ぐるみで次代を担う子どもたちを育てる。 ・体験を通して、大人のつながりの中で福祉を学	・対象者：小学4年生～高校生まで ・活動：年20回 メイン活動 ・地域探検災害マップ作り。 ・救急法を学ぼう。 ・認知症サポーター養成講座。 ・地震防災センター見学。	・サポート隊(小中PTA役員、子供会役員、ボランティア、社会福祉協議会) ・協力者：小中学校、小中PTA、子供会、連合自治会、社会福祉協議会	小学生～大人 ⇒P.58
			3. 福祉課題を学ぶ	広報紙「社会福祉だより」を作成し、福祉活動の啓発を図ろう	[ねらい] 広報紙を活用して、地域の中での社会福祉活動の実態や課題、目指す方向等を広く住民に理解してもらい、福祉活動について関心をもてるようにする。	・広報紙をつくる人を決めよう。(事前に地区社協、民生児童委員協議会、公民館とうと打ち合わせ) ・広報紙を創ろう。 ・地域の人に配ろう。 ・アンケートを実施しよう。 ・ふりかえり。 ・ふりかえりでの意見をもとに、広報紙を工夫しよう。	・社会福祉協議会 ・自治会 ・学校 ・民生児童委員協議会 ・地域ボランティア ・公民館 ・老人クラブ ・障がい者団体

高校生等

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
将来の地域の姿や、暮らしやすい地域のあり方について考える	5. 地域探索等を通じ誰もが住みやすい町を考える		地域の安全点検をして、災害に備えよう	[ねらい] 防災をテーマに、子どもと大人が一緒になって自分の地域を点検して防災マップを作ることで、防災意識を高め、誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりにつなげる。	・地震の被害や対策について考えよう。 ・どんな防災マップにするか話し合おう。 ・地域を点検しよう。 ・防災マップを作ろう。 ・ふりかえり。 ・ふりかえりで考えた取り組みを実践しよう。	・自治会 ・行政 ・公民館 ・社会福祉協議会 ・学校 ・地域住民 ・民生児童委員 ・ボランティア	小学生～大人 ⇒P.63
			創ろう・造ろう 私にとってのふるさととサクラ ～地域に発信！サクラ〇〇町プロジェクト	[ねらい] 地域に対して自分ができることを探り、実行することで、地域への所属意識を高め、自立できる生徒になる。	・働くってどういうこと？地元で働く人に話を聞く。職場体験等。 ・知ろう 私たちの住む地域 見つけよう 私たちのふるさと 「ふるさとサクラといえは〇〇町」〇〇に入るものを考え、調べる。 ・「わたしにとってのふるさととはここにある」という思いを持って学習を終える。	・地元の人々	中学生、高校生等 ⇒P.41
			STOP 〇〇町の人口減 私たちの地域 今・未来	[ねらい] 「何もないから、〇〇町はすきじゃない」と思っている生徒たちに、故郷への誇りをもってほしく、社会の授業で、人口という切り口で、世界・日本・〇〇町を学び、地域の課題や解決策を通して、将来の自分を考える。	・〇〇町の人口の予測データを作成 ・地域の人の聞き取り調査(〇〇町を離れた人、住み続けている人等) ・様々な意見を受け止め、課題に気づく。 ・人口減をストップさせるための理想と現実のはざまでは葛藤 ・対立する現実の中でより良い道を探す。	・地域の住民	中学生、高校生等 ⇒P.42
			電車廃線から地域を考えた ありがとう〇〇線活動実行委員会の活動	[ねらい] 〇〇線の廃線が発表されたことにより、鉄道好きの生徒を中心に実行委員会を立ち上げ、最寄駅の清掃と「ありがとう〇〇線新聞」の発行活動をはじめた。活動を通して地域の人たちとの出会いがあり、廃線問題だけでなく、地域の未来を考える視野を持つ。	・実行委員会を立ち上げる。 ・生徒会の予算をもらい、最寄駅の清掃活動と、「ありがとう〇〇線新聞」を発行する。 ・〇〇線沿線や駅員取材する。 ・テレビ出演。 ・小学生にも〇〇線のことを覚えてほしく、キッズ新聞を発行する。 ・廃線の原因をメンバーで考える「〇〇線サミット」を開き、最終版に掲載する。	・高校生徒 ・保護者 ・地区住民自治協議会 ・地域の人 ・電鉄駅員	中学生、高校生等 ⇒P.43
地域の様々な社会資源について理解する	8. 地域の福祉サービスや社会福祉施設を体験的に学び理解する	セーフティーネットを知るプログラム	[ねらい] 地域で住民同士の関わりが希薄化している中で、子どもたちが家族や学校以外の地域での関わりを持つことが難しくなっている。「人との関わり」を通して、自らSOSを出せる(相談できる)、周りのサポートを受け入れられる力(受援力)を養うことが重要。社会の中には様々なセーフティーネット(社会保障制度を含む)があり、色々な人々がお互いに支え合いながら生きていることを学ぶ。	プログラムの実施にあたっては、職場体験の経験と関連させて学びを深めていくことが有効と考えられるため、職場体験後の振り返りの時間に併せて導入することを前提としている。 ・1コマ目「みんなで支え合って生きている～相談できる場所を知ろう～」 グループでの話し合い、全体共有 ・2コマ目「みんなで支え合って生きている～支えあう仕組みを知ろう～」 グループでの話し合い、全体共有	・職場体験先の職員 ・地域住民	中学生、高校生等 ⇒P.44	
		学校における福祉教育支援	[ねらい] ・福祉に興味、関心を持つ。 ・学校と地域とを福祉を介在につなぐ。	[活動期間] 7月～11月(10回程度) ・事前 福祉、ボランティア学習 ・市内の各福祉施設、ボランティア団体等での体験学習 ・外部講師の講演、交流など ・報告書の作成、発表会	・高校 ・市内福祉施設 ・市内ボランティア団体 ・障がい者 ・市内社会教育施設 ・公共施設	中学生、高校生等	
		私たちができるサポートを学ぼう ～思いやりをもって～	[ねらい] 福祉体験実践 1年生	・ガイダンス(福祉とは) ・私たちができる視覚障害者へのサポートを学ぶ。 ・フィールドワーク 市街地に行き、視覚障がいの体験とその支援を実践。 ・対話会 体験を通しての意見交換 講師(視覚障がい者、盲導犬利用者) 福祉マップ作成 ・ユニバーサルデザインを学ぶ。 ・高齢者体験 高齢者疑似体験と老人介護サービス、高齢者介護講座 ・福祉体験学習のまとめ ・意見発表 「高齢者も障がい者も私たちも暮らしやすい社会」 ゲスト(社協、訓練士、介護士) ・まとめ 福祉体験学習を通しての報告書作成 「社協だより」に掲載し地域に発信する。	・社会福祉協議会 ・視覚障がい者の団体	中学生、高校生等 ⇒P.45	

関心を持つ・課題を認識する

高校生等

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">関心を持つ・課題を認識する</p>	地域の様々な社会資源について理解する	8. 地域の福祉サービスや社会福祉施設を体験的に学び理解する	高齢者も障がい者も私たちも暮らしやすい社会にするために、私たちのできること ～アクションを起こそう～	[ねらい] 福祉体験実践 2年生	・ガイダンス 1年生の活動を踏まえて、アクションしよう。 ・体験にむけてテーマを決める。 ・福祉体験活動の具体化 福祉活動の実践。 ・夏休み 福祉講座等へ積極的に参加。 ・福祉体験学習のまとめ。 ・私たちと福祉 意見発表。	・社会福祉協議会 ・保護者	中学生、高校生等 ⇒P.46
			高校生福祉体験授業	[ねらい] 高校生が施設で福祉体験をすることで、福祉施設を知るとともに、高齢者に対するやさしい対応や心遣いなど、福祉のこころを育む。	時間数 1時間×3回 ・車いす体験、実習 ・シーツ交換体験、実習 ・レクリエーション体験 ・デイサービス体験実習 ・調理場体験	・高校 ・社会福祉施設	中学生、高校生等
	地域を支える担い手(住民・ボランティア・専門職等)の役割を理解する	10. 地域の担い手としてのサポート方法を学ぶ	高校生と地域の方との交流 ～自分たちの学んだ活動を見てもらおう～	[ねらい] 地域の方と交流をすることで地域福祉への関心を深める。 地域で活動することにより、高校生の活動を地域の方に見ていただき、地域と学校との関わりを強化する。	・料理のメニューを考える。 ・ミニデイを訪問 調理した後、高齢者と一緒に食事をする。 ・ふりかえり	・ミニデイ会員 ・高等学校教員 ・社会福祉協議会 ・地区振興協議会	
			高齢者サロンと交流	[ねらい] 高校生が高齢者サロンの人との交流を図ることで、地域福祉への理解と関心を高め、地域のなかでともに支え合おうとする心を育てる。	・ふれあい、いきいきサロンについて学ぶ。 ・円滑なコミュニケーションの取り方を学ぶ。 ・高齢者サロンに訪問する。 ふりかえり ・サロンを訪問し、生徒が企画した内容をもとに、実際にサロンを運営する。 ふりかえり ・サロンを訪問し、再度をサロン運営する。 ふりかえり	・社会福祉協議会 ・レクリエーション協会 ・公民館	⇒P.49
			高齢者にケータイ操作法を指南	[ねらい] 「地域」の授業で地域の歴史・文化を学んだり、地域の方々に話を聞いたりしている。2年次は班(保育、地域の自然、超ボランティア等)に分かれ活動をしている。生徒から自分たちが地域で教えられることはないか・・・携帯電話講座が発案され、町ボランティアセンターのコーディネーターに相談・協力してもらい実施した。高齢者からとても喜ばれ、生徒も達成感をもち次の活動につながった。	・生徒から携帯電話講座が発案される。 ・社協のボランティアコーディネーターに相談し、広報・会場の準備をしてもらう。 ・講座を実施。	・社会福祉協議会のボランティアコーディネーター ・地域住民	
			中学・高校生ボランティア・サマースクール(ワークキャンプ)	[ねらい] ボランティア体験を通して、高齢者、障がい者、子どもたちと交流し普段体験することの少ない貴重な時間を過ごす。	・事前プログラム 参加者の交流 ・ボランティア学習プログラム 3コース ・事後プログラム ふりかえり	・中学校、高校 ・外部講師 ・福祉施設 ・ボランティア団体	中学生、高校生等 ⇒P.47
	12. ボランティア養成講座	高校生ボランティアネットワーク事業	[ねらい] ・高校生の主体形成(自立、成長支援) ・自他地域での活動を通じた地域コミュニティにおける新たな高校生の社会的役割創出 [活動内容] ・市内高校生ボランティアのネットワーク化活動 ・自他地域における地域課題解決のための活動	[活動期間] 通年 [展開] 〈事前〉 ・地域学習 ・同世代や異世代とのコミュニケーション 〈体験・実践〉 ・地域課題の解決策の企画、実践 ・プロジェクト型プログラムの実施 〈事後〉 ・活動のふりかえり ・活動報告会(年度末)	・市内高校 ・地区自治会 ・市社協 ・市行政		

高校生等

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
関心を持つ・課題を認識する	地域を支える担い手(住民・ボランティア・専門職等)の役割を理解する	12. ボランティア養成講座	青少年ボランティアリーダー養成研修事業	<p>[ねらい] 人材育成を主眼に、研修終了後の継続したボランティア活動者を養成する。</p> <p>[活動内容] ・コミュニケーションスキル、ファシリテーションスキルの向上 ・ワークキャンプでのリーダー実践 ・他者との協働・協力関係の構築</p>	<p>[活動期間]6月～8月（全6回）</p> <p>[展開] 〈事前〉 ・ワークショップや講義 〈体験・実践〉 ・ワークキャンプの運営 〈事後〉 ・活動報告者の作成、発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内高校 ・外部講師 ・市内福祉施設 ・市行政 ・障がい者 ・市内ボランティア団体 	⇒P.50
			青少年ボランティアリーダー養成研修事業	<p>[ねらい] ボランティアリーダーに関する知識・技術の習得を通して、ワークキャンプ事業等において中心的な役割を担う青少年ボランティアリーダーを養成する。</p>	<p>[日程] 1日または2日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアリーダーのノウハウを学ぶ。 ・アイスブレイクを学ぶ。 ・チームの力を知る。 ・ロールプレイで力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会 ・市内高校 	
課題解決の方策を考える	課題解決に向けた組織・人・計画・拠点づくりを行う		もうひとつのふるさと応援プロジェクト	<p>[ねらい] ・高齢化集落における外部の力を活かした地域コミュニティづくり ・雪かき等ボランティアの育成 ・地域住民とボランティアの交流</p> <p>[活動内容] ・雪かきボランティア体験活動 ・獣害対策、景観保護のための草刈り等の活動 ・地域住民との交流活動</p>	<p>[活動期間] ・通年（年間3回程度）</p> <p>〈事前〉 ・地域学習 ・ボランティア同士の仲間づくり 〈体験・実践〉 ・雪かき体験塾 ・草刈り活動、交流活動 〈事後〉 ・活動のふりかえり(今後の地域への関わり方)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区自治会 ・市行政 ・県関係機関 	小学生～大人 ⇒P.71

大人

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ	
感覚を養う 命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	1. 地域の高齢者・障がい者・子ども、或いは社会福祉施設等利用者と交流を図る		心であくしゅ ～総合的な学習の時間～	[ねらい] 障がいのある人の立場に立ち、共に生きていくために大切なことを考える。また、災害の種類や内容について知り、自分の命を守る方法を考え、避難するときや避難所での生活する際にできるボランティアを探し、自助の力を身につける。	福祉教育 ・視覚障がい者講話 ・身体障がい者講話 ・聴覚障がい者講話 ・手話学習 ・点字学習 ・高齢者疑似体験 ・車いす体験 ・アイマスク体験 ・ユニバーサルデザインについて 防災ボランティア教育 ・起震車 乗車 ・震災ボランティア講話、非常食体験、ボランティア活動 ・液化化実験、災害伝言ダイヤル「171」 ・災害時に生かせるロープワーク ・防災カルタ	・社会福祉協議会 ・点訳サークル ・身体障がい者福祉会 ・災害ボランティアの会 ・行政(危機管理局)	小学生、中学生、高校生等、 大人 ⇒P.26	
			“福祉の心・奉仕の心”を育てる ～子ども福祉委員会～	[ねらい] ・地域の子どもの地域で育てるという「地域による福祉教育」の具体化を進める。 ・地域の大人、地域の福祉組織の活動に主体的に参加することにより、福祉の心・奉仕の心を育てたい。 ・子どもが参画することにより、地域の大人の目線・発想を変え、子どもを育てながら大人の「福祉教育」(意識啓発)を図る。	・グループホームへ交流訪問。子どもたちの合唱。スタッフの楽器演奏など披露。 ・乳幼児センターの訪問交流。屋内外遊びや着替えの世話。 ・地区敬老会へ子どもスタッフとして参画。 ・ボランティア委員会主催の福祉バザーに売り子スタッフとして参画。	・社会福祉協議会 ・ボランティア委員会	⇒P.51	
			障がいのある子どもとの交流 ～特別支援学校編～	[ねらい] 特別支援学校の生徒・教員と地域住民が、学校や地域での活動に相互に招待したり、参加したりすることで交流を深め、地域住民と特別支援学校の生徒との良好な関係を構築する。	「特別支援学校」ってどんなところだろう。 ・学校公開に参加しよう。 ・計画を立て、交流、共同実践をしよう。 ・海岸・遊歩道の清掃 ・「〇〇カフェ」のビルメンテナンスと清掃。 ・ランチカフェでの野菜栽培 ・ふりかえり	・特別支援学校(教員、生徒) ・「〇〇カフェ」 ・社協 ・介護老人福祉施設 ・観光協会 ・町役場	⇒P.52	
			地域みんなが集まろう！	[ねらい] 集落の中のみんなが公民館に集まり、交流を図ることで地域福祉への理解と関心を高め、子供会も交えて「ともに支え合おう」とする心を育てる。	・計画を立てる。 ・サロンの開催(7、8、9、1月は子供会と交流) ・ふりかえり	・サロン世話人 ・役場福祉課	全世代 ⇒P.53	
			地域の伝統を受け継ごう	[ねらい] 地域にある伝統を受け継ぐ人から、伝統(技能・技術)について教わりながら、その人自身の人柄や多様な価値観に触れ、技術以上のことをお互いに学び合う。	・地域の伝統を知ろう。 ・伝統行事を体験してみよう。 ・グループで発表しよう。 ・ふりかえり。 ・前回学んだことを活かして、地域の行事等で披露しよう。	・学校 ・公民館 ・PTA ・社会福祉協議会 ・ボランティア ・地域住民 ・老人クラブ	⇒P.54	
			施設の利用者と交流しよう	[ねらい] 地域にある高齢者施設やグループホーム、障がい者施設等の利用者が地域の行事に参加したり、地域住民が施設の行事に参加することで、地域住民と施設の利用者とのつながりをつくり、日常的に関わりを持てるようにする。	・施設のことを知ろう。 ・施設の利用者と交流しよう。 ・ふりかえり。 ・施設の利用者を招待しよう。 ・施設が行うボランティア活動などに参加してみよう。	・学校 ・社会福祉協議会 ・施設 ・社協ボランティアセンター	全世代 ⇒P.55	
			2. 様々な情報・話等を通じ命の大切さを理解する	ペットボトルキャップをワクチンに かえて世界の子どもたちを救おう！	[ねらい] ペットボトルキャップのリサイクル活動を通じて「福祉の心」を実践活動の中から育てるとともに、気軽に参加できる子どもたちのボランティア活動の場をつくる。地域の誰もが気軽に参加できるボランティア活動の場をつくる。	・ボランティア活動、リサイクルについて学習する。 ・各学校で回収、分別、発送することで自主的な活動として取り組んでいる。 ・回収、分別、発送だけでなく、キャップアートに挑戦することで、楽しみながらボランティア活動につなげている。	・いきいきサロン	小学生、中学生、高校生等、 大人 ⇒P.27

大人

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
感覚を養う 命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	2. 様々な情報・話等を通じ命の大切さを理解する		防災キャンプで防災教育	[ねらい] 地域の子どもを対象に、住民や学生が協働して避難所体験を行うことで、子どもと大人がお互いの顔がわかる関係を築きながら、思いやりの気持ちを育み、防災への意識を高める。	1泊2日 ・防災についてのお話を聞こう。・避難体験ゲームを体験しよう。 ・避難所をつくろう。・炊き出しをしてみよう。 ・防災グッズについて知ろう。・物資を運ぶ訓練をしよう。 ・緊急避難訓練。・非常食を食べてみよう。 ・町歩きをしよう。・応急救護の訓練をしよう。 ・ふりかえり。	・社会福祉協議会 ・行政(防災・安全部局) ・PTA ・学校 ・ボランティア ・消防署	小学生～大人 ⇒P.56
	3. 様々な人とのふれあいから思いやりの心を育てる		日本語教育で国際交流	[ねらい] 地域で日本語の学習が必要な児童やその家族が、日本語の学習を通して地域住民と交流することで、日常的に関わりを持てるようにする。	・外国人との交流について、話を聞こう。 ・外国人と交流しよう。 ・ふりかえり。 ・地域の行事に招待しよう。 ・日本語教室を開こう。	・学校 ・社会福祉協議会 ・行政 ・ボランティア ・国際交流団体 ・国際交流員	⇒P.57
	4. 話や福祉体験等を通じ、高齢者・障がい者等の特性を近い、心のバリアフリーを育む		違いを超えて伝え合う「視覚障がいがある人と美術館に」	[ねらい] 障がいがある人は助けを待つばかりの人ではありません。「してあげる⇒助けてもらう」だけではない、対等な関係を作るための豊かな出会いを紹介します。	美術館で実施される「対話型鑑賞」にボランティアとして参加する。	・障がい者自立生活支援センター	中学生、高校生等、大人
	5. 補助犬の必要性や役割を理解する		障がい者の暮らしを考えよう	[ねらい] 地域のなかで補助犬と生活を共にする障がい者から話を聞いたり、交流したりする中で、障がい者が地域で暮らしていくうえでの課題や自分たちができることを考える。	・補助犬について知ろう。 ・補助犬の仕事を見てみよう。 ・ふりかえり ・補助犬を広めよう。	・PTA ・社会福祉協議会 ・補助犬と生活している人 ・地域住民	小学生、中学生、高校生等、大人
	6. あいサポーター研修		「あいサポート運動」障がいの特性や障がいのある方への配慮を知る	[ねらい] 「あいサポート運動」を知り、障がい特性や配慮について学ぶ	・「あいサポート運動」について ・DVD「まず、知ることからはじめましょう 障がいのこと」視聴 ・「あいサポート運動」への協力依頼、あいサポートバッジの説明 ・簡単な手話講座 ※島根県作成『あいサポートメッセージ養成研修マニュアル』使用	・メッセージャー ・企業、団体等	(島根県)
	関心を持つ・課題を認識する 地域の特徴や抱える生活・福祉課題について理解する	2. 自分たちの地域を知る、過去の災害から故郷を知る		〇〇町ユニバーサルプロジェクト	[ねらい] 障がい者が望むユニバーサルマップを作るプロジェクトに参加することにより、これまで意識していなかった道路の段差や斜度が障がい者にとっては不便なものとなることに気づいたり、協力者である店主から「地域を大切に」することの話を聞く。		・障がい当事者 ・障がい者支援団体 ・福祉分野の専門家 ・企業
			シカの食害問題から学ぶふるさと自然のこと	[ねらい] シカの食害は、中山間地の過疎・高齢化、森林の荒廃などと深くつながっていることを学ぶとともに、どんな複雑な問題でも、解決のためにできることは必ずあり、出来ることから始めることを学ぶ。	・シカによる農林業被害について学ぶ。 ・シカを増やさない方法について考える。 ・シカに荒らされた森を復活させることを学ぶ。 ・ニッコウキスゲの花畑を復活させることを学ぶ。 ・苗を育て、〇〇高原に植える。	・農業協同組合	小学生、中学生、高校生等、大人 ⇒P.37

大人

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
関心を持つ・課題を認識する	地域の特徴や抱える生活・福祉課題について理解する	2. 自分たちの地域を知る、過去の災害から故郷を知る	子どもから大人までが関わりを持つ福祉のまちづくり～子どもボランティア隊の活動	[ねらい] 「子どもたちの自立と共生」地域の中で大人との関わりをもち、自分達のやりたい事・地域の人みんなが、幸せになる為に、自分たちも地域の一人として、何が出来るか考え活動につなげる。 ・友達作り、子ども同士の縦横のつながりをつくる。 ・地域ぐるみで次代を担う子どもたちを育てる。 ・体験を通して、大人のつながりの中で福祉を学	・対象者：小学4年生～高校生まで ・活動：年20回 メイン活動 ・地域探検災害マップ作り。 ・救急法を学ぼう。 ・認知症サポーター養成講座。 ・地震防災センター見学。	・サポート隊(小中PTA役員、子供会役員、ボランティア、社会福祉協議会) ・協力者：小中学校、小中PTA、子供会、連合自治会、社会福祉協議会	小学生～大人 ⇒P.58
			発達障がいって何？	[ねらい] 発達障がいの特性を正しく理解し、ともに地域社会で暮らしていく視点を持つ。	・発達障がいについて知ろう。 ・発達障がいの困難さを体験してみよう。行動面、社会性など。 ・まとめ・ふりかえり ・発達障がいの人を含めた地域福祉を考えよう。災害時の避難体制等。	・公民館 ・各種団体 ・ボランティア	⇒P.59
		3. 福祉課題を学ぶ	児童虐待について知ろう	[ねらい] 児童虐待等、子どもの権利が侵害されている実態について知り、子どもの権利について考える契機とする。	・子どもの権利について知ろう。 ・子どもを守るためにできることを考えよう。 ・ふりかえり ・グループワークで考えた取り組みを、実践してみよう。	・社会福祉協議会 ・学校 ・児童養護施設、乳児院 ・行政(児童相談所)	⇒P.60
			広報紙「社会福祉だより」を作成し、福祉活動の啓発を図ろう	[ねらい] 広報紙を活用して、地域の中での社会福祉活動の実態や課題、目指す方向等を広く住民に理解してもらい、福祉活動について関心をもてるようにする。	・広報紙をつくる人を決めよう。(事前に地区社協、民生児童委員協議会、公民館とうと打ち合わせ) ・広報紙を創ろう。 ・地域の人に配ろう。 ・アンケートを実施しよう。 ・ふりかえり。 ・ふりかえりでの意見をもとに、広報紙を工夫しよう。	・社会福祉協議会 ・自治会 ・学校 ・民生児童委員協議会 ・地域ボランティア ・公民館 ・老人クラブ ・障がい者団体	小学生～大人 ⇒P.61
		4. 社会的包摂について理解する	社会的包摂を考えるロールプレー	[ねらい] ロールプレーを通して、色々な立場の人の気持ちになることを体験し、建前でなく自己の中にあるコンフリクト(全く知らないことからくる反感)も体験する。本人の役割を演じることで、本人の気持ちを理解したり受容できる人が増えることも期待される。排除する側と本人という二者関係ではなく、その間に中間的な立場の住民がいるという三者関係であることが重要。中間的な立場の住民は本人と排除する側の折り合いをどうつけ、支援者側としてはどの立ち位置をとっていかを考えることをねらいとする。	・時間 90分程度 ・3人1組になり、テーマを与えてロールプレー A: 困った人 B: 排除する人(近隣) C: 支援する住民 ①双方の言い分を聞き、課題が何かを考える。 ②支援者としてどう折り合いをつけるか考える。 ③まとめ ファシリテーターによる考察 テーマ例 ・ゴミ屋敷になり引きこもりがちでコミュニケーションがとりにくい男性 ・認知症になりよく鍋を焦がすようになった一人暮らしの女性 ・公園にいるホームレスの人 伝えるべきメッセージ ・排除する側と本人という二極対立を防ぐためにも、双方の間に立つ住民の層を厚くしていくことが必要。排除されている側に寄り添い、その人たちの想いを代弁できる人たちを増やしていくことで社会的排除を防いでいくことができる。		⇒P.62
将来の地域の姿や、暮らしやすい地域のあり方について考える	5. 地域探索等を通じ誰もが住みやすい町を考える	地域の安全点検をして、災害に備えよう	[ねらい] 防災をテーマに、子どもと大人が一緒になって自分の地域を点検して防災マップを作ることで、防災意識を高め、誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりにつなげる。	・地震の被害や対策について考えよう。 ・どんな防災マップにするか話し合おう。 ・地域を点検しよう。 ・防災マップを作ろう。 ・ふりかえり。 ・ふりかえりで考えた取り組みを実践しよう。	・自治会 ・行政 ・公民館 ・社会福祉協議会 ・学校 ・地域住民 ・民生児童委員 ・ボランティア	小学生～大人 ⇒P.63	

大人

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
関心を持つ・課題を認識する	将来の地域の姿や、暮らしやすい地域のあり方について考える	7. 小地域福祉活動の重要性を学ぶ	誰もが生まれた地域・自宅で暮らしたいと思える地域づくりを考えよう	[ねらい] 介護劇を通して介護に関する情報提供を行う。地域での助け合い・支え合いの大切さを伝え病気や障害があっても自宅で過ごせる環境づくりを応援していく。	・企画・学習会・練習 2h～3h×1ヶ月位 テーマを決める テーマの学習会 台本作成 出演者を決め、役割分担 ・介護劇の披露 ・ふりかえり	・社会福祉協議会 ・地域のボランティア会員 ・民生児童委員	⇒P.64
			誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる自治会を目指そう！	[ねらい] 自治会の中の身近な場で、住民同士がお互い支え合い、助け合い小地域福祉活動を推進する。	・地域の福祉力を高めるための組織化 年2回 ・異年代交流からサロン開催へ 介護予防事業 月1回 福祉施設めぐり 年1回 ・支え合いマップづくり 図上訓練 ・ふりかえり ・生活支援ネットワーク、見守り活動へ 毎日	・公民館 ・社会福祉協議会 ・役場 ・地域包括支援センター	⇒P.65
	地域の様々な社会資源について理解する	9. 法律・制度・施策を学ぶ	元気なときに考えておこう 必ず役立つ！やさしい法教育講座	[ねらい] 安心して老後を過ごすために必要な法律を学び、自分自身の希望や思いを確実に伝える方法を考える。	・法律について知ろう。 ・自分の思いを残すことを考えよう。 ・ふりかえり ・サポート、個別相談。	・公民館 ・老人クラブ ・社会福祉協議会 ・民生委員 ・地域包括支援センター	⇒P.66
	地域を支える担い手(住民・ボランティア・専門職等)の役割を理解する	12. ボランティア養成講座	シニアボランティア講座 生活支援型～くらし安心～	[ねらい] 団塊の世代や中高年の者が介護の知識を学び、今後の生活に生かしたり、地域でボランティア活動へ参画するきっかけをつくる。	・講義「今後、シニア世代に期待されること」 ・傾聴スキルの習得 ・認知症の話 ・からだの変化を知ろう。 ・日常生活の具体的な介護の知識と技術 ・もしもの時に役立つ応急手当	・社会福祉協議会	⇒P.67
			シニアボランティア講座 生きがい・健康促進型～くらしイキイキ～	[ねらい] 団塊の世代や中高年の者が地域のサロン等で生かせるレクリエーション等を学び、今後の生活に生かしたり、地域でボランティア活動へ参画するきっかけをつくる。	・講義「今後、シニア世代に期待されること」 ・傾聴スキルの習得 ・音読であたまいきいき ・レクリエーション ・ニュースポーツを楽しむ。 ・珈琲・紅茶の美味しい入れ方講座	・社会福祉協議会	⇒P.67
			大人のためのボランティア学校	[ねらい] 今の現状を知り、地域の未来を感じ、ボランティアの意思をもって、創造的市民像の創出を目指す。	全11回講座 ・講義「社会とボランティアの関係性」、「健康」、「チームとしてのチカラ」、「地域への関心」、「地域への付加価値を高める」、「身近なボランティア」、「ボランティアの実践を考える」 ・ボランティアの体験	・社会福祉協議会 ・商工会議所青年部 ・ボランティア団体 ・社会福祉施設、事業所	⇒P.68
			地域でボランティア活動を始めてみませんか	[ねらい] 地域住民がボランティア活動へ参加するきっかけとなるような、ボランティア講座、ボランティア体験活動を行い、ボランティア活動への関心や参加意欲を高める。	・ボランティアって何？ ボランティア講座開催 ・ボランティア活動に参加しよう。 ふりかえり ・ふりかえりで考えた活動を実践しよう。	・社会福祉協議会 ・地域住民 ・企業 ・公民館 ・行政 ・ボランティア	⇒P.69

社会福祉施設

深化	到達目標	テーマ	プログラム名	プログラム概要	プログラム構成・取り組み内容	連携・協働体制	詳細プログラムページ
感覚を養う	命の大切さを理解するとともに人への思いやりや多様性を認めあう心を養う	3. 様々な人とのふれあいから思いやりの心を育てる	子どもかい交流事業	[ねらい] 地域の子どもかい(小学1年生から6年生)と世代間交流を通して地域と交流する。	・交流会(あいさつ、自己紹介、交流ゲーム等) ・昼食(カレー・プリンアラモード) カレーは子どもたちと施設職員で材料の買い出しから盛り付けまで行う。低学年はプリンアラモードをつくる。	・社会福祉施設 ・地域こども会	
			〇〇苑ライブリークラブ	[ねらい] 遊びの中から福祉のやさしい心を育む。 小学4年生以上で福祉ボランティアクラブをつくり、子どもたちが楽しみながら継続的に福祉を学ぶ。	・施設が主催するイベントに参加する。 ・自由に施設でボランティア活動をする。	・町 ・社会福祉協議会 ・町内各小学校	(島根県)
関心を持つ・課題を認識する	地域を支える担い手(住民・ボランティア・専門職等)の役割を理解する	12. ボランティア養成講座	親子で楽しくボランティア	[ねらい] 普段ボランティア活動をする機会のない親世代に、子どもを通して参加を呼び掛ける。	・子どもと一緒に、施設が主催するイベントや施設でのボランティア活動に参加する。	・町 ・社会福祉協議会 ・町内各小学校	(島根県)
			元気な体をつくろう ～チャレンジスタンプラリー～	[ねらい] 「いつまでも元気に暮らしたい!、寝たきりにならないように!」普段からの転倒予防を! まずは自分の体を知るために「体力チェック」	・長座体前屈、握力測定、肺活量チェックなど ・リハビリ専門のOTからコメント	・社会福祉施設 ・高齢者クラブ	
課題解決の方策を考える	課題解決に向けて地域住民の理解や参画を得る		家族介護教室 介護ストレスと上手につきあおう～メンタルヘルスのためのヒント～	[ねらい] 介護ストレスをため込まないように、上手な対処方法を学び、心身ともに健康に過ごそう!	11回講座 ・「家庭でできる口腔ケア」、「高齢者疑似体験～気持ちがかれば介護が変わる～」、「住みなれた地域で暮らしていくために～賢い病院のかかり方～」等	・市行政 ・市老人福祉施設連盟	